

#### (4) ヒメシャガ

ヒメシャガの影響予測結果と確認状況を表 6-38 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヒメシャガの確認地点を図 6-39 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内の 3 地点、改変エリア境界から 60m 範囲の 54 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 4 地点のうち 3 地点（15 個体）については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った（図 4-5 参照）。移植された 15 個体のうち 9 個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。また、供用後の事後調査では、改変エリア内の 3 地点で本種を確認した。このうち 2 地点は、移植の残渣個体であり、残り 1 地点は、評価書では改変エリアとして設定していたが、工事を進めた結果、実際に改変した場所からは外れ、その後も生育している個体と考えられた。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への間接的影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

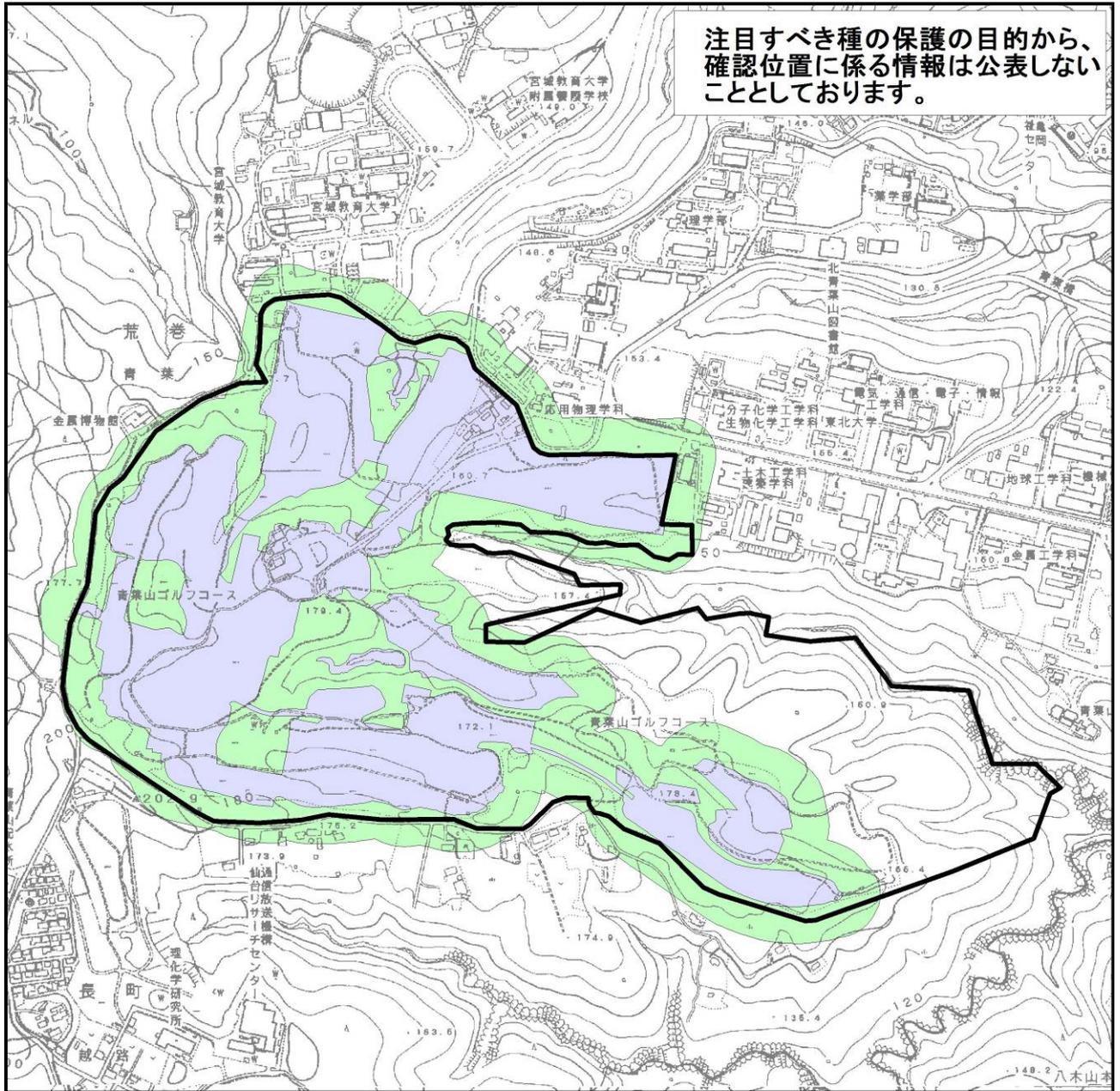
表 6-38 影響予測結果と確認状況（ヒメシャガ）（植物：33/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ヒメシャガ	生育地点での地形の改変などにより 192 地点*1のうち 4 地点*2が失われる。既存の生育地点では道路脇や林縁的な環境に生育する個体も多く、保存される生育地点においては、間接的な影響は少ないと考えられる。	ほとんど影響なし（改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など）	環境影響評価 (H17)	4*2	46
			供用後の事後調査 (H25)	3	54

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

\*2 評価書では 3 地点で確認と記載していたが、再度、調査データを精査した結果、4 地点での確認であった。

注) 移植を、3 地点（15 個体）に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
-  ヒメシャガ
- H17確認種
-  ヒメシャガ

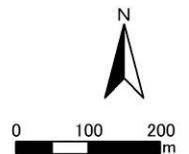


図 6-39 ヒメシャガ確認地点

(メ) ヒメコヌカグサ

ヒメコヌカグサの影響予測結果と確認状況を表 6-39 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるヒメコヌカグサの確認地点を図 6-40 に示した。

供用後の事後調査において、本種は確認されなかった。

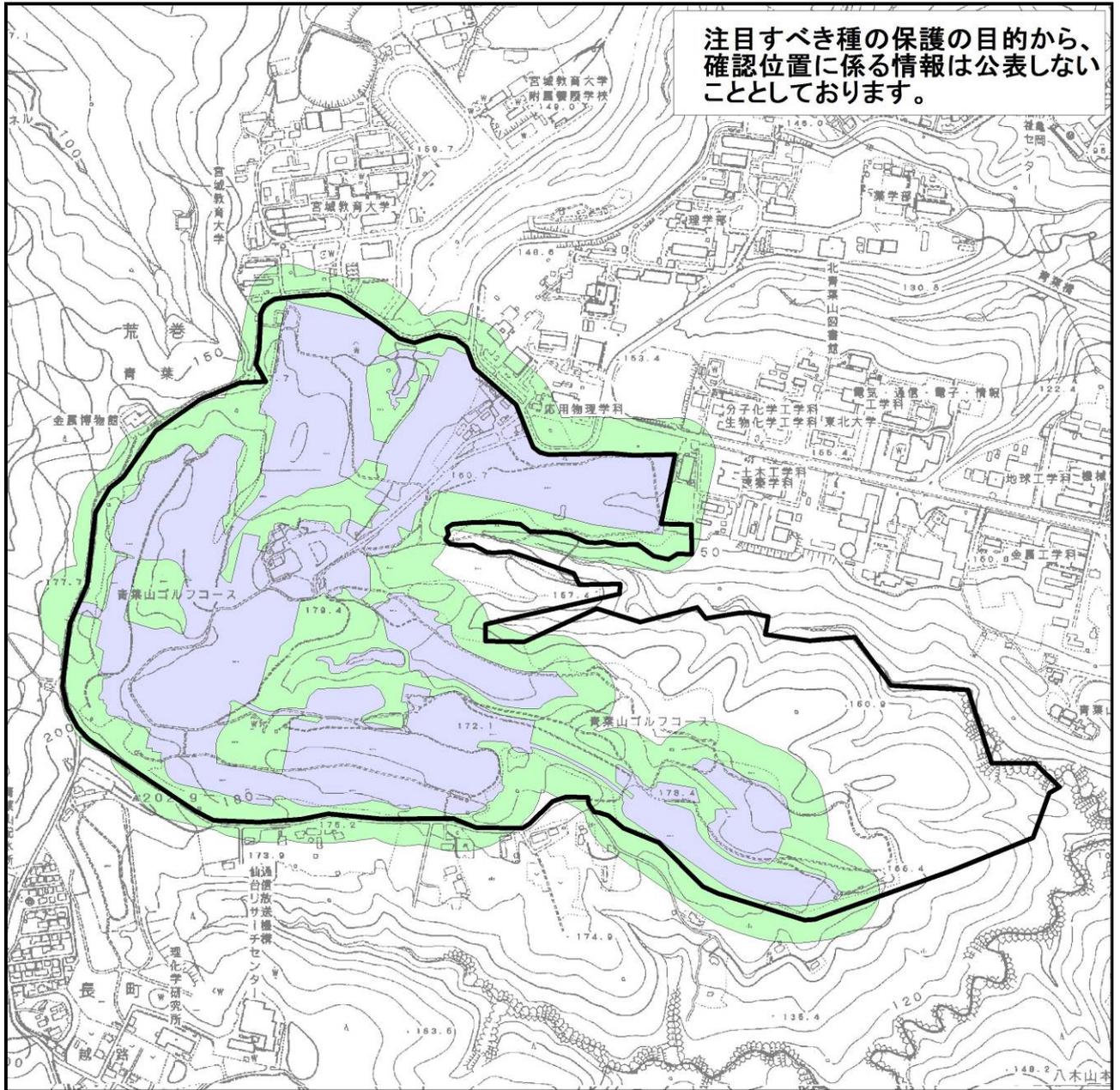
改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 1 地点 (7 個体) については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った (図 4-5 参照) が、平成 25 年度移植モニタリング調査では生育が確認されなかったため、今後もモニタリング調査を行っていく。

本種は、せせらぎの縁などの湿った草地に生育する。事業においては水域の保全に努め、水みちの復元を行っており、本種が生育可能な環境も維持されていると考えられる。

表 6-39 影響予測結果と確認状況 (ヒメコヌカグサ) (植物 : 34/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ヒメコヌカグサ	生育地点での地形の改変などにより確認された 1 地点が失われる。同種はせせらぎの縁などの湿った草地に生育する多年草で、そのような環境を整備して移植し、種の保存を図る必要がある。	影響大 (影響個体が多く、軽減措置も困難 : 生育地の消失率 20% 以上の種)	環境影響評価 (H17)	1	0
			供用後の事後調査 (H25)	0	0

注) 移植を、1 地点 (7 個体) に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含まない。



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- ヒメコヌカグサ

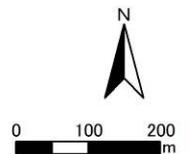


図 6-40 ヒメコヌカグサ確認地点

(E) オオウシノケグサ

オオウシノケグサの影響予測結果と確認状況を表 6-40 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるオオウシノケグサの確認地点を図 6-41 に示した。

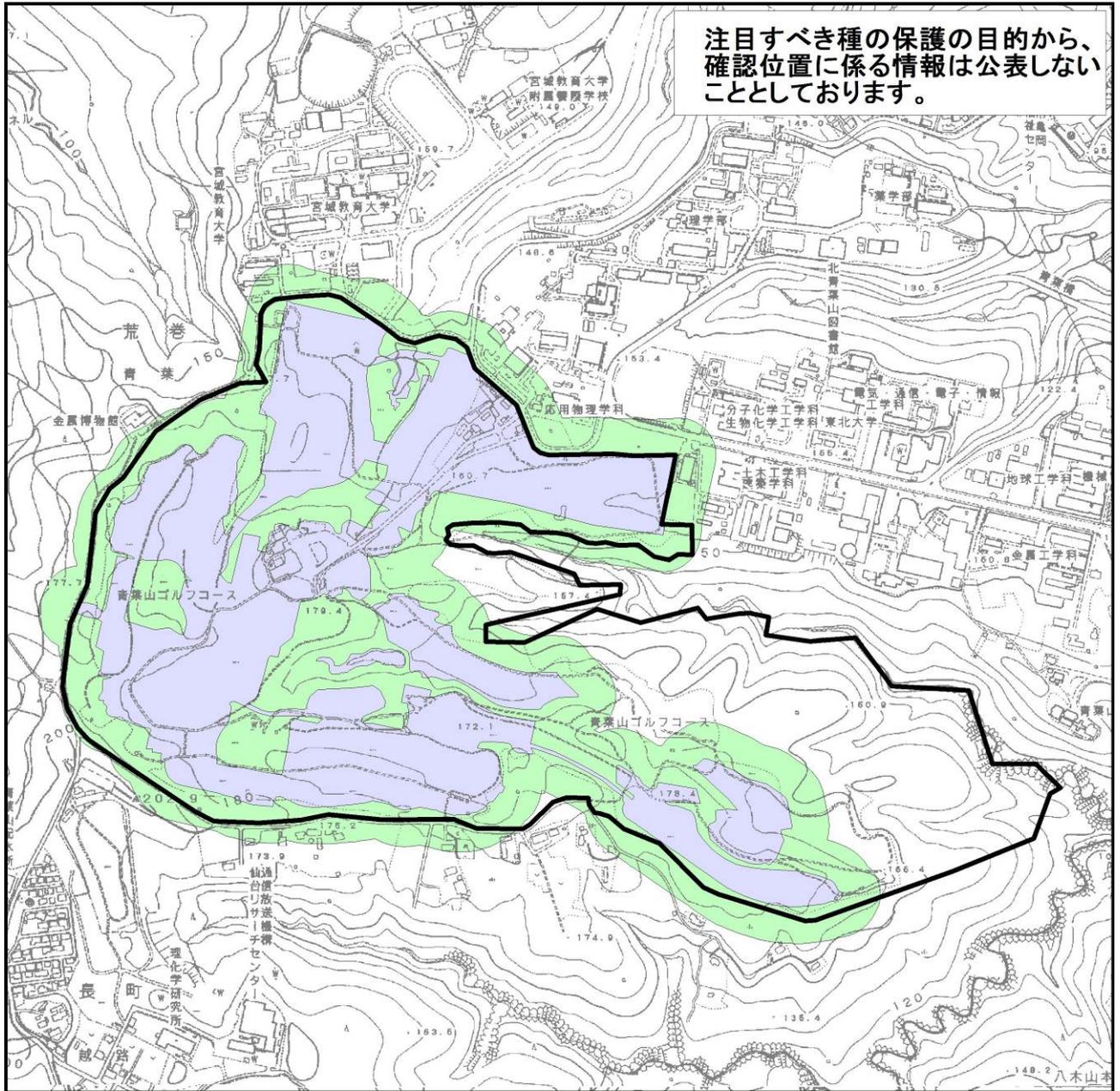
供用後の事後調査において、本種は、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 1 地点で確認された。

本種は、注目すべき種の選定基準に当てはまるものの、ゴルフ場当時に植栽された西洋シバのひとつであることから、移植対象としておらず、環境影響評価時に改変エリアに生育していた 2 地点は、予測結果のとおり事業により消失したと考えられる。

表 6-40 影響予測結果と確認状況（オオウシノケグサ）（植物：35/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
				改変エリア内	改変エリア境界から 60m 範囲
	予測結果	影響の程度			
オオウシノケグサ	生育地点での地形の改変などにより 5 地点*1のうち 2 地点が失われる。植栽による西洋シバであることから、移植は不要と考えられた。植栽による西洋シバであることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	影響小(影響個体が少ない)	環境影響評価 (H17)	2	0
			供用後の事後調査 (H25)	0	1

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
-  オオウシノケグサ
- H17確認種
-  オオウシノケグサ

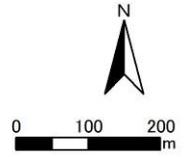


図 6-41 オオウシノケグサ確認地点

(ヤ) センダイザサ

センダイザサの影響予測結果と確認状況を表 6-41 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるセンダイザサの確認地点を図 6-42 に示した。

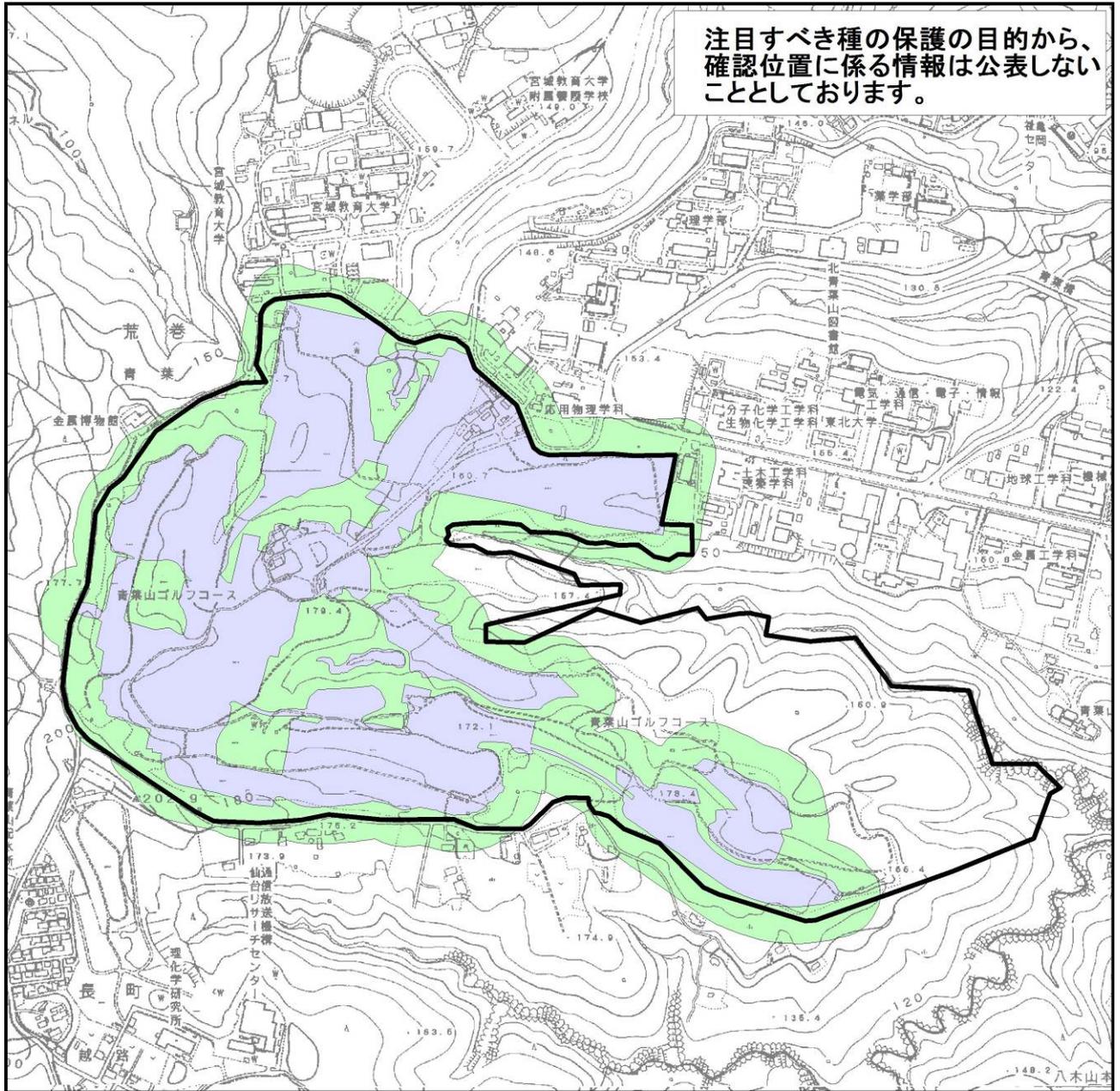
供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。

本種は、本来は林下に生育する。環境影響評価時に本種が確認された環境は、林縁であり本来の生育環境とは異なる。造成工事による本種の生育地点の地形改変はなかったが、付近の地形改変等に伴い生育地の環境が変化したことにより、環境影響評価時に確認された個体は、衰退し消失した可能性が高いと考えられる。

なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、残存緑地において本種の生育環境は確保されていると考えられる。したがって、事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-41 影響予測結果と確認状況（センダイザサ）（植物：36/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		変更エリア内	界から60m範囲 変更エリア境
センダイザサ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はないと考えられた。保存される生育地点の中には既存の■■■■に隣接する林縁部などに生育する個体群もあることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし(変更エリア内やその周辺に生育地がない種、変更エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少くない種など)	環境影響評価 (H17)	0	1
			供用後の事後調査 (H25)	0	0



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- センダイザサ

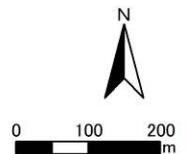


図 6-42 センダイザサ確認地点

(1) スエコザサ

スエコザサの影響予測結果と確認状況を表 6-42 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるスエコザサの確認地点を図 6-43 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 8 地点で確認された。

本種は、改変エリア内では、環境影響評価時に 1 地点で確認され、移植前調査（平成 20 年 5 月実施）においても確認された。この地点については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った（図 4-5 参照）。移植された個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時（10 地点）と同程度の 8 地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

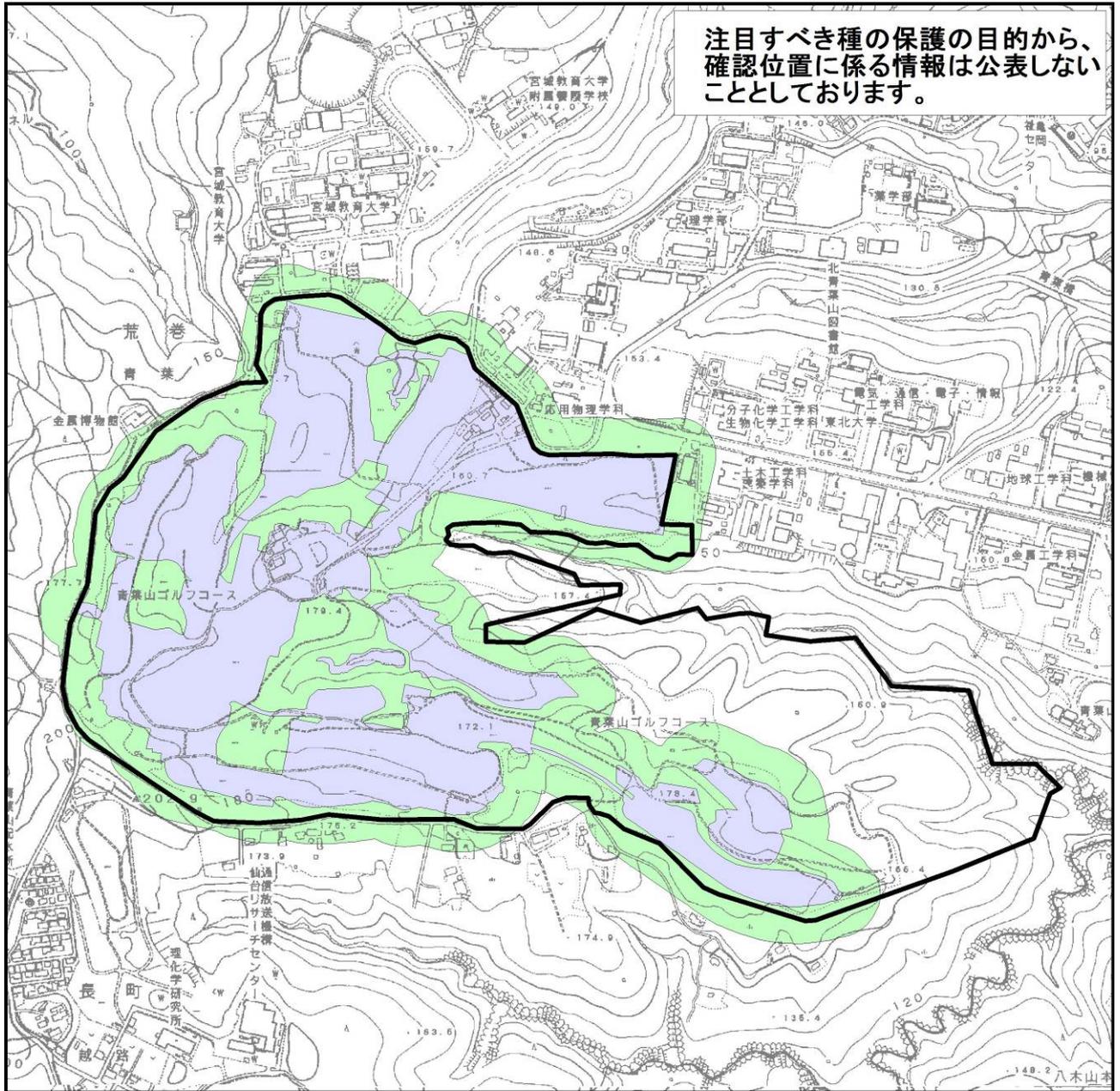
表 6-42 影響予測結果と確認状況（スエコザサ）（植物：37/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
スエコザサ	生育地点での地形の改変などにより 20 地点*1のうち 1 地点*2が失われる。消失する個体群については、適地に移植し、種の保存を図る必要がある。保存される生育地点は供用地域から 60m 以上離れていることから、間接的影響はないと考えられる。	影響小(影響個体が少ない)	環境影響評価 (H17)	1*2	10
			供用後の事後調査 (H25)	0	8

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

\*2 評価書では 3 地点で確認と記載していたが、再度、調査データを精査した結果、1 地点での確認であった。

注) 移植を、改変エリア内の 1 地点に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

H25確認種

-  スエコザサ

H17確認種

-  スエコザサ

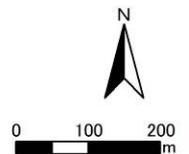


図 6-43 スエコザサ確認地点

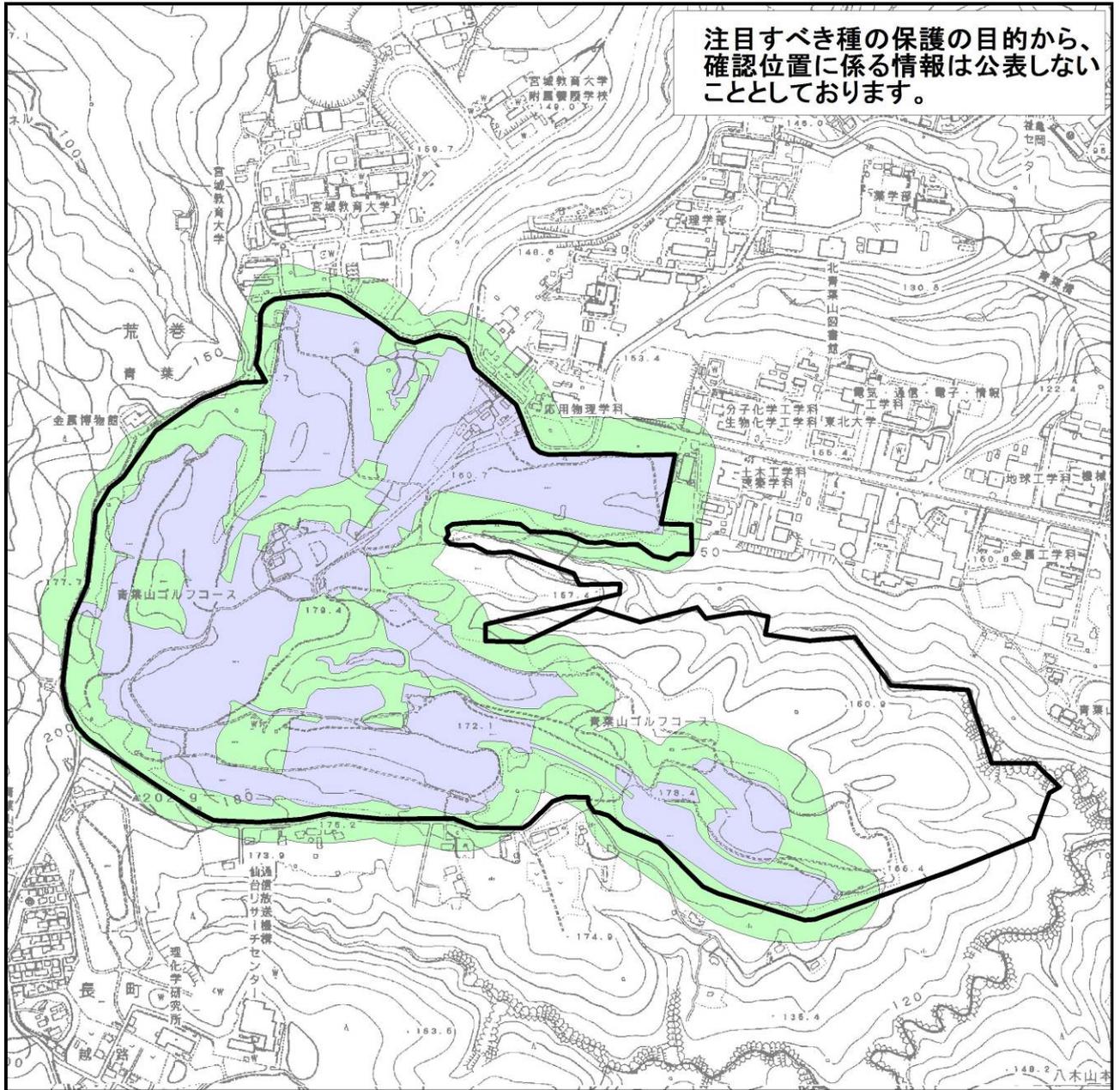
(3) ネズミノオ

ネズミノオの影響予測結果と確認状況を表 6-43 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるネズミノオの確認地点を図 6-44 に示した。

供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。環境影響評価時に改変エリア内に生育していた 4 地点は、予測結果のとおり事業により消失した。ただし、本種は、ゴルフ場 [REDACTED] に適応して生育していた種類であり、環境影響評価時に確認された個体も自然分布ではないと考えられたため、移植対象とはしなかった。

表 6-43 影響予測結果と確認状況（ネズミノオ）（植物：38/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ネズミノオ	生育地点での地形の改変などにより 5 地点のうち 4 地点が失われる。本種は路傍やグラウンドなどに生えるイネ科の多年草であり、間接的な影響は少ないものと考えられる。	影響大（影響個体が多く、軽減措置も困難：生育地の消失率 20%以上の種）	環境影響評価（H17）	4	1
			供用後の事後調査（H25）	0	0



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H17確認種
-  ネズミノオ

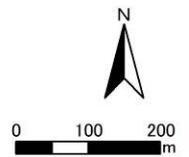


図 6-44 ネズミノオ確認地点

(5) マメクグ

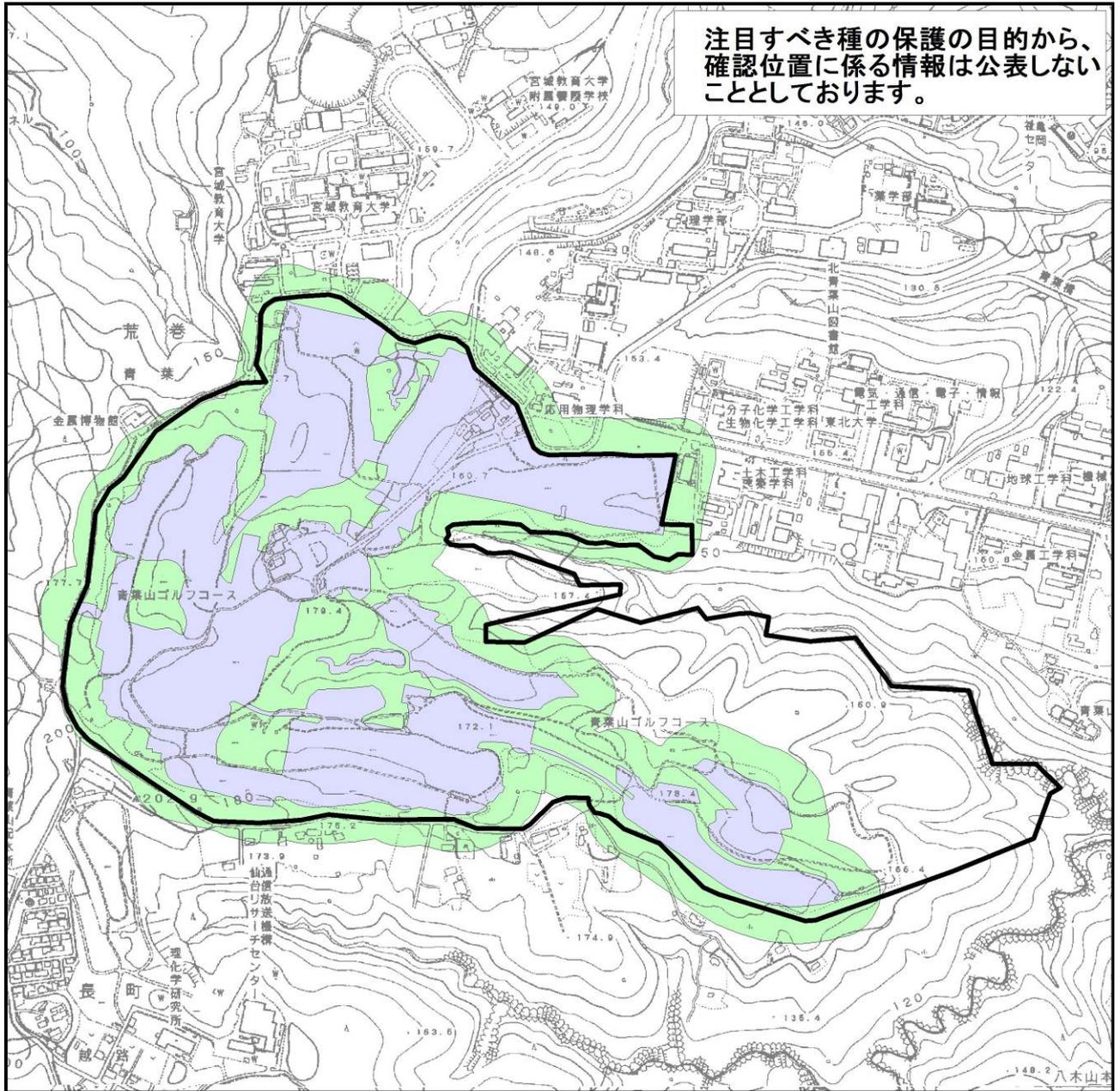
マメクグの影響予測結果と確認状況を表 6-44 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるマメクグの確認地点を図 6-45 に示した。

供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。環境影響評価時に改変エリア内に生育していた 1 地点は、予測結果のとおり事業により消失した。ただし、本種は、ゴルフ場 [redacted] よりもたらされた可能性が高く、環境影響評価時に確認された個体も、自然分布ではないと考えられたため、移植対象とはしなかった。

表 6-44 影響予測結果と確認状況（マメクグ）（植物：39/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
マメクグ	生育地点での地形の改変などにより確認された 1 地点が失われる。本種は、[redacted] 河川から持ち込まれた一年草で、砂地の湿った環境に生育している。移植には同様の環境を創造する必要がある。*1	影響大（影響個体が多く、軽減措置も困難：生育地の消失率 20%以上の種）	環境影響評価（H17）	1	0
			供用後の事後調査（H25）	0	0

\*1 人為的に持ち込まれたものである可能性が高いため、移植は行わないこととした。



凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- マメクグ

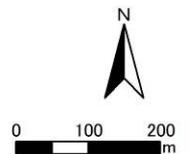


図 6-45 マメクグ確認地点

(リ) ユウシュンラン

ユウシュンランの影響予測結果と確認状況を表 6-45 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるユウシュンランの確認地点を図 6-46 に示した。

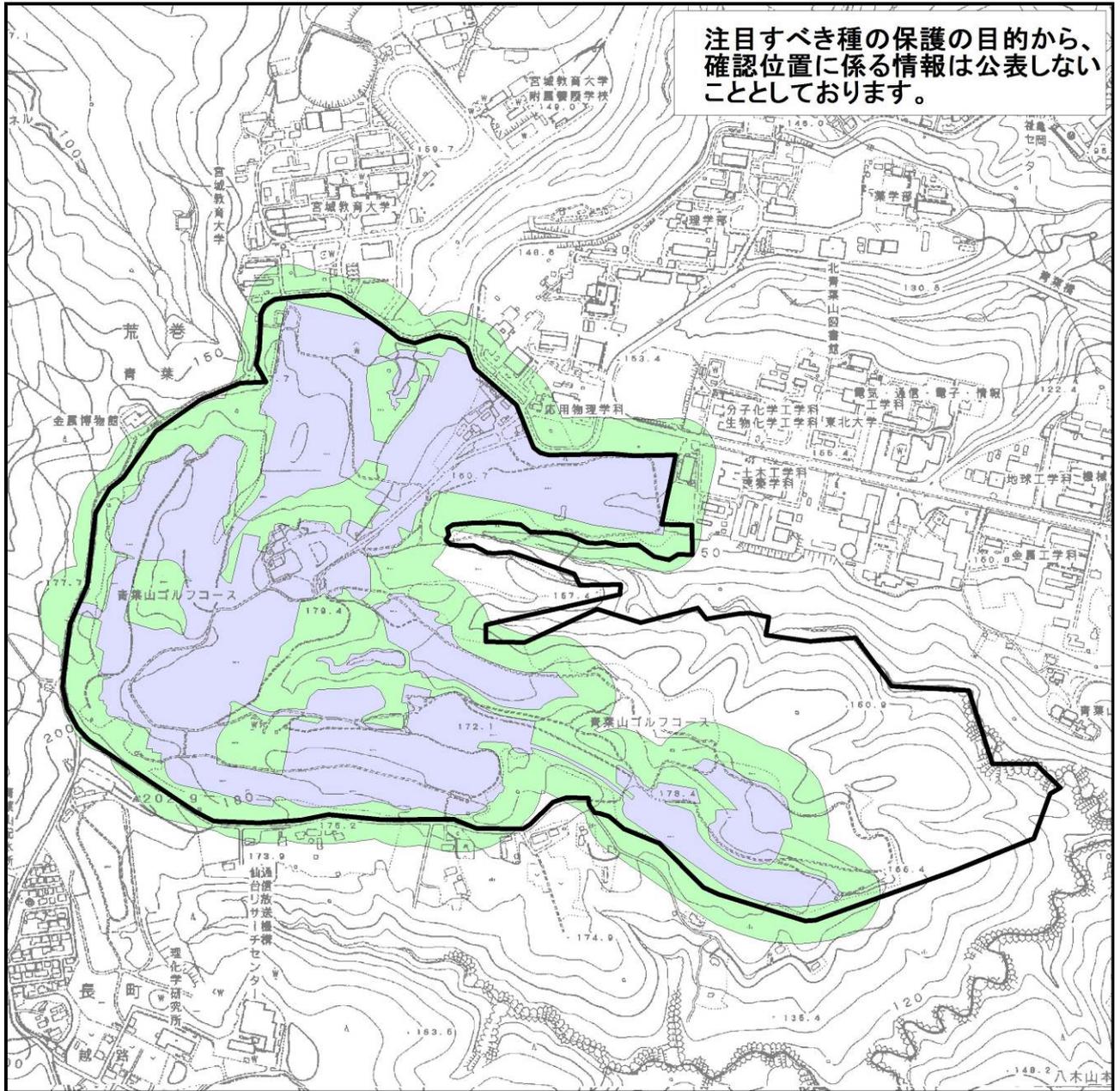
供用後の事後調査では、本種は確認されなかった。

本種は、環境影響評価時にはゴルフ場当時のシバ刈り後の刈り取り葉を堆積させた環境に生育していた。本種については、移植対象種として、事業実施前の平成 20 年 5 月に移植前調査を行ったが、環境影響評価時の確認地点で全てが消失しており移植はできなかった。なお、消失理由については不明であるが、ゴルフ場当時とは草地管理に違いがあるため、この影響が及んだ可能性は否定できない。

表 6-45 影響予測結果と確認状況 (ユウシュンラン) (植物 : 40/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		変更エリア内	界から 60m 範囲 変更エリア境
ユウシュンラン	生育地点での地形の変更などにより 35 地点*1のうち 18 地点が失われる。同種はアカマツ林の林床で、シバ刈り後の刈り取り葉を堆積させた環境に生育する多年草である。消失する個体群については、適地に移植し、種の保存を図る必要がある。保存される個体も林床への日照や乾燥化によっては影響を受ける可能性があるため、影響を軽減するよう配慮する必要がある。	影響大 (影響個体が多く、軽減措置も困難 : 生育地の消失率 20%以上の種)	環境影響評価 (H17)	18	11
			供用後の事後調査 (H25)	0	0

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

-  ユウシュンラン

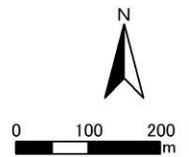


図 6-46 ユウシュンラン確認地点

(ル) ササバギンラン

ササバギンランの影響予測結果と確認状況を表 6-46 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるササバギンランの確認地点を図 6-47 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 4 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に生育していた 1 地点 (8 個体) については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行った。移植された 8 個体のうち 7 個体は、平成 25 年度移植モニタリング調査で生育状態が良好であり、種の保存が図られていると考えられる。

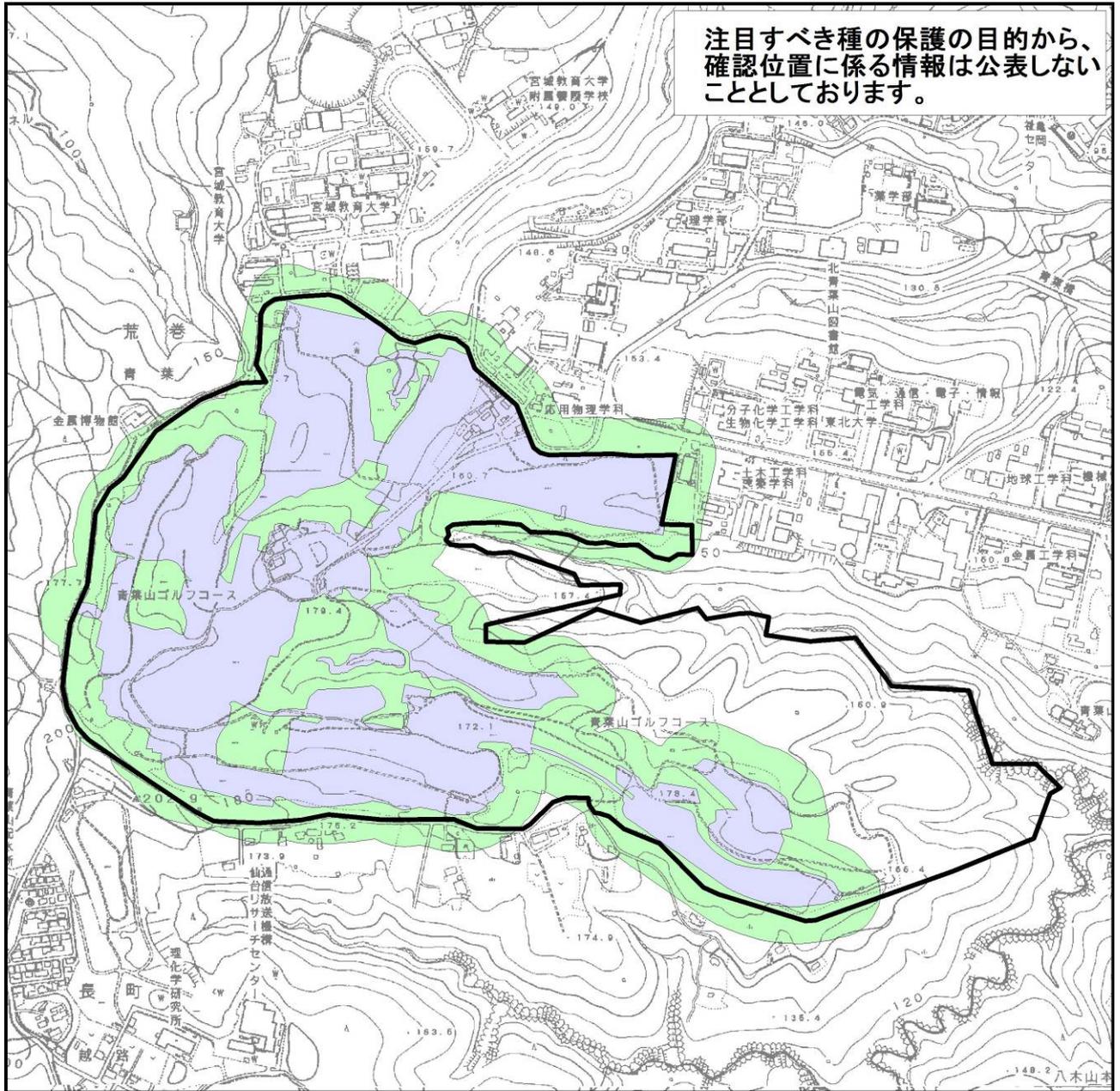
改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時と同じ地点数で本種の生育を確認しており、事業による本種への間接的影響は、生育地の保全に留意し、工事影響の低減に努めたことから、なかったと考えられる。

表 6-46 影響予測結果と確認状況 (ササバギンラン) (植物 : 41/44)

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
ササバギンラン	生育地点での地形の改変などにより 7 地点*1 のうち 1 地点が失われる。保存される個体も林床への日照や乾燥化によっては影響を受ける可能性があるため、影響を軽減するよう配慮する必要がある。	影響小(影響個体が少ない)	環境影響評価 (H17)	1	4
			供用後の事後調査 (H25)	0	4

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を、8 個体に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含めない。



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  改変エリア
-  改変エリア境界から60m範囲

- H25確認種
-  ササバギンラン
- H17確認種
-  ササバギンラン

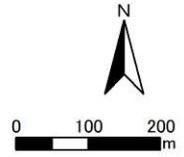


図 6-47 ササバギンラン確認地点

(h) ホクリクムヨウラン

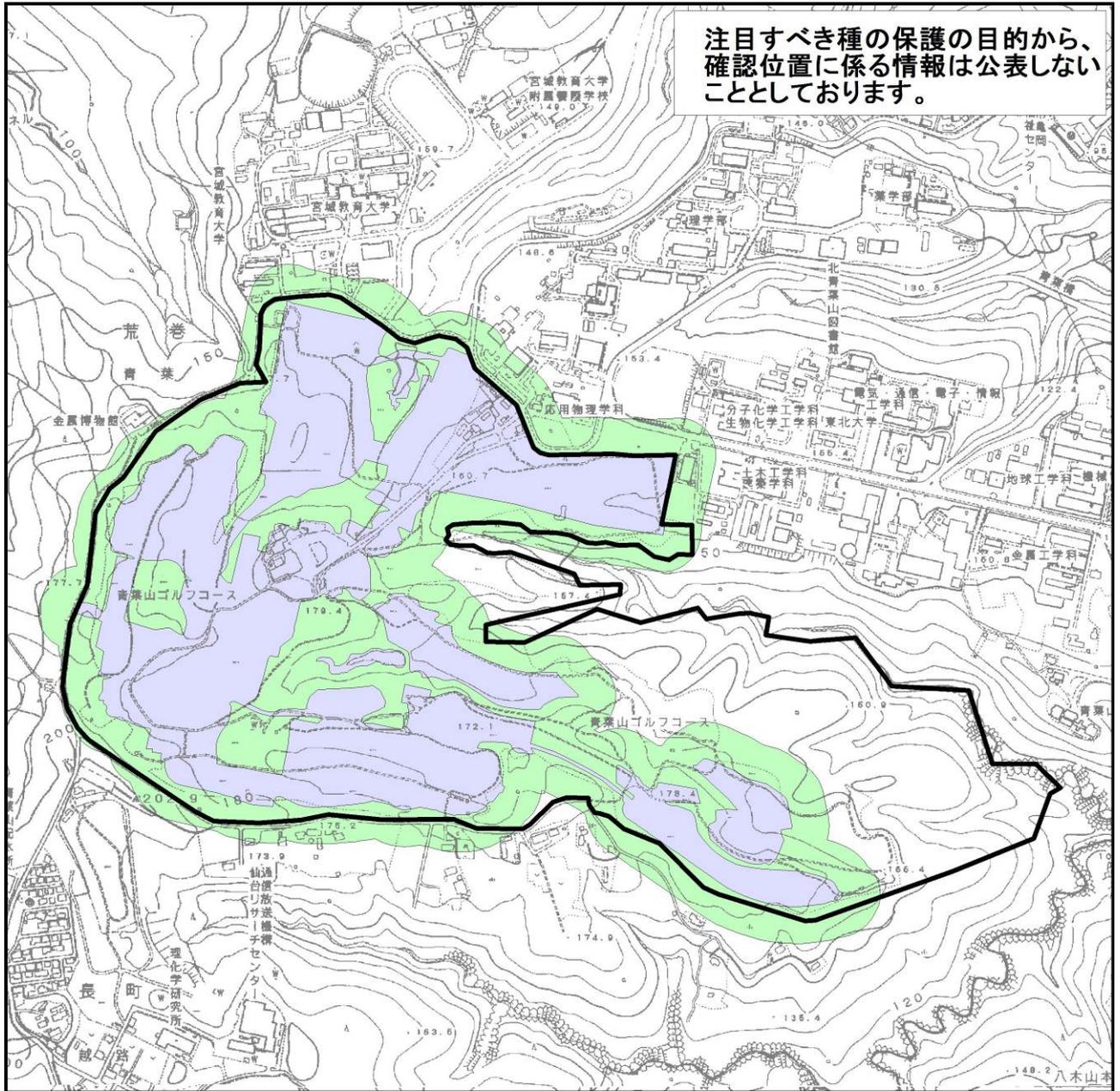
ホクリクムヨウランの影響予測結果と確認状況を表 6-47 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるホクリクムヨウランの確認地点を図 6-48 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内では確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 3 地点で確認された。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時よりも多くの地点で本種の生育を確認しており、事業による本種への影響は、予測結果のとおり小さかったと考えられる。

表 6-47 影響予測結果と確認状況（ホクリクムヨウラン）（植物：42/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
				改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
	予測結果	影響の程度			
ホクリクムヨウラン	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はないと考えられた。保存される地点には、 <span style="background-color: black; color: black;">          </span> に隣接した樹林内に生育するものもあり、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし（改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など）	環境影響評価 (H17)	0	1
			供用後の事後調査 (H25)	0	3



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
  -  ホクリクムヨウラン
- H17確認種
  -  ホクリクムヨウラン

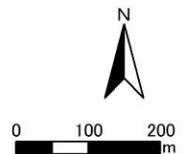


図 6-48 ホクリクムヨウラン確認地点

(ロ) ジガバチソウ

ジガバチソウの影響予測結果と確認状況を表 6-48 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるジガバチソウの確認地点を図 6-49 に示した。

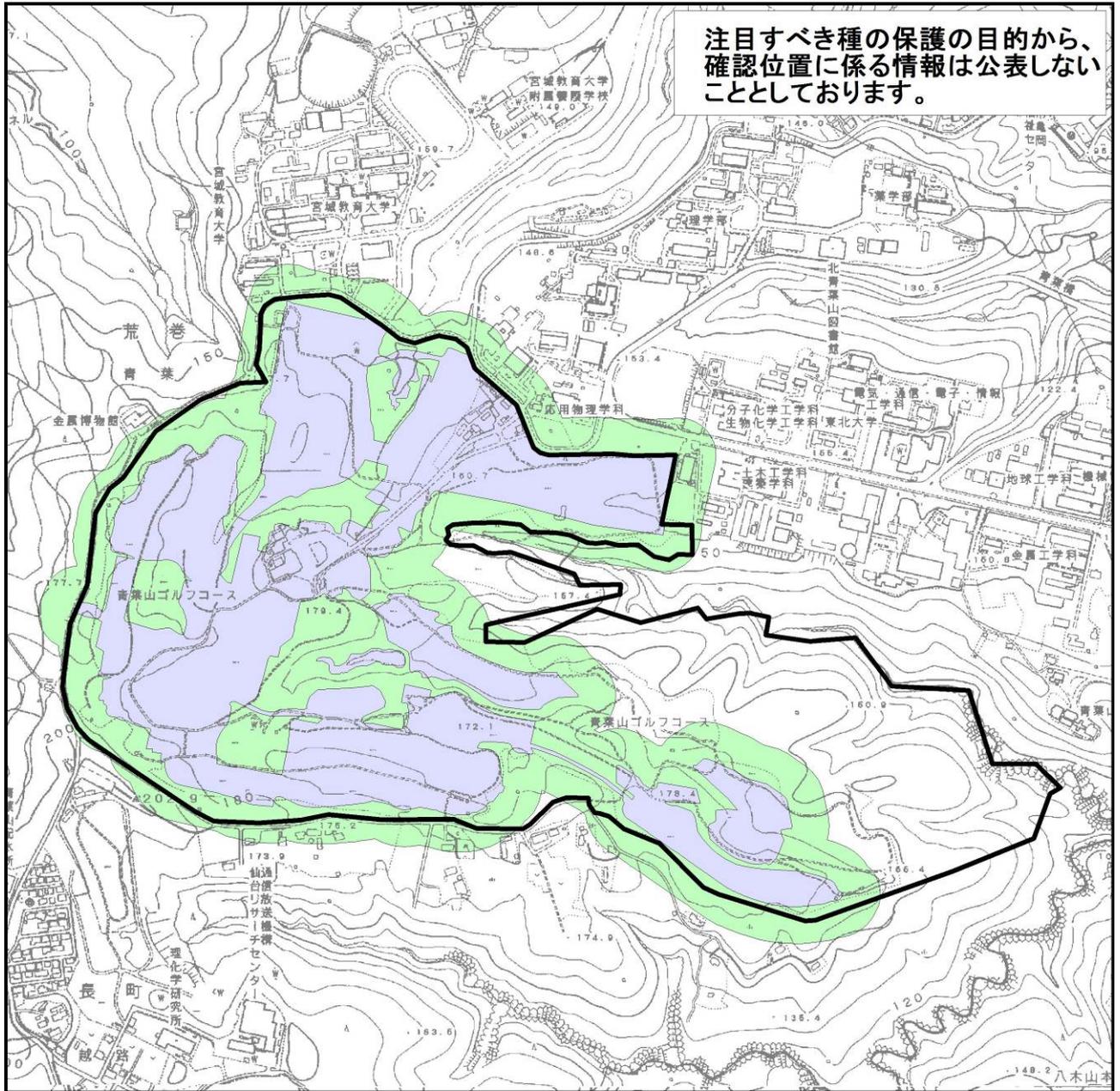
供用後の事後調査において、本種は確認されなかった。

本種は、本来は山地の樹林下に生育する。環境影響評価時に本種が確認された環境は、林縁部であり本来の生育環境とは異なる。また、造成工事による本種の生育地点の地形改変はなかったが、付近の地形改変等に伴い生育地の環境が変化したことにより、環境影響評価時に確認された個体は、衰退し消失した可能性が高いと考えられる。

なお、本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-48 影響予測結果と確認状況（ジガバチソウ）（植物：43/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
				改変エリア内	界から60m範囲 改変エリア境
	予測結果	影響の程度			
ジガバチソウ	生育地点での地形の改変はなく、直接的影響はないと考えられた。確認された地点のうち、1地点は造成境界に近いため、工事時に注意が必要であり、供用後も、生育地の改変に留意することにより、種の保存を図る必要がある。	影響小（影響個体が少ない）	環境影響評価（H17）	0	1
			供用後の事後調査（H25）	0	0



注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。

凡例

- 対象事業実施区域
- 変更エリア
- 変更エリア境界から60m範囲

H17確認種

- ジガバチソウ

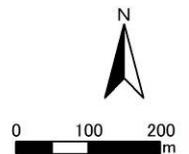


図 6-49 ジガバチソウ確認地点

(7) クモキリソウ

クモキリソウの影響予測結果と確認状況を表 6-49 に、環境影響評価時と供用後の事後調査におけるクモキリソウの確認地点を図 6-50 に示した。

本種は、供用後の事後調査において、改変エリア内には確認されず、改変エリア境界から 60m 範囲の 1 地点で確認された。

改変エリア内では、環境影響評価時に確認された 1 地点（1 個体）については、地形改変により消失する可能性があったため、事業実施前の平成 20 年度に移植を行ったが、平成 25 年度のモニタリング調査では生育が確認されなかったため、今後もモニタリング調査を行っていく。

改変エリア境界から 60m 範囲では、環境影響評価時の確認地点とは別の 1 地点で本種の生育を確認しており、種の保存はされていると考えられる。

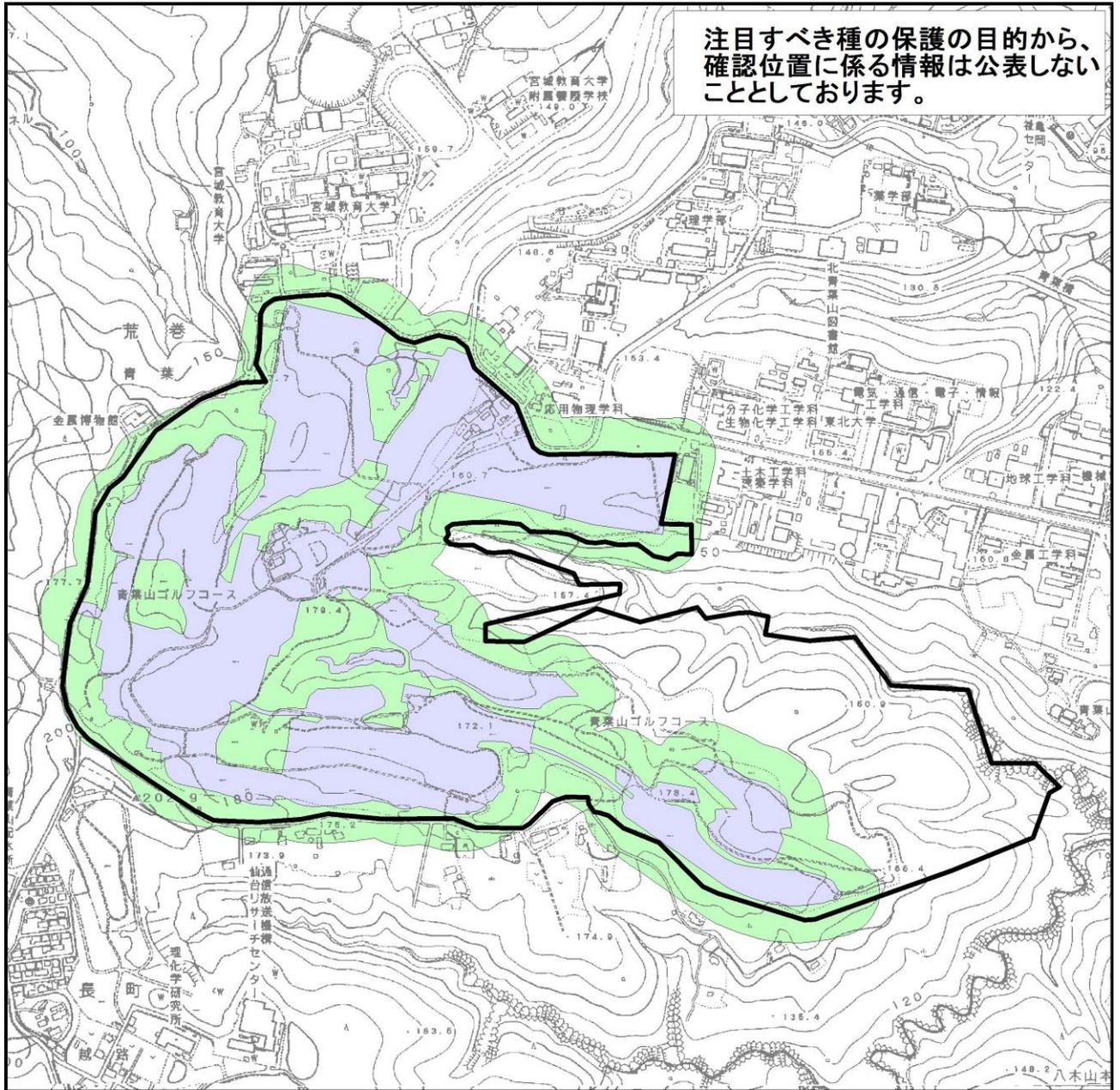
本種の主な生育環境は、山地の疎林下である。本事業では、対象事業実施区域での保全地域の確保に努め、既存樹林地を極力残しており、本種の生育環境の維持に努めている。事業による本種への影響は、事業者の実行可能な範囲内で最大限の低減措置が図られていると考えられる。

表 6-49 影響予測結果と確認状況（クモキリソウ）（植物：44/44）

種名	環境影響評価時		調査年度	確認地点数	
	予測結果	影響の程度		改変エリア内	界から 60m 範囲 改変エリア境
クモキリソウ	生育地点での地形の改変などにより 19 地点*1のうち 1 地点が失われる。保存される地点については、草地に隣接した樹林に生育するものも多く見られることから、間接的な影響は少ないものと考えられる。	ほとんど影響なし（改変エリア内やその周辺に生育地がない種、改変エリア周辺に生育地があるが環境の変化が少ない種など）	環境影響評価（H17）	1	1
			供用後の事後調査（H25）	0	1

\*1 環境影響評価時に確認された対象事業実施区域境界から 200m 範囲内における地点数である。

注) 移植を、1 個体に対して行った。なお、移植した個体は、供用後の事後調査の確認地点数には含まない。



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- H25確認種
  -  クモキリソウ
- H17確認種
  -  クモキリソウ

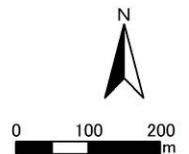


図 6-50 クモキリソウ確認地点

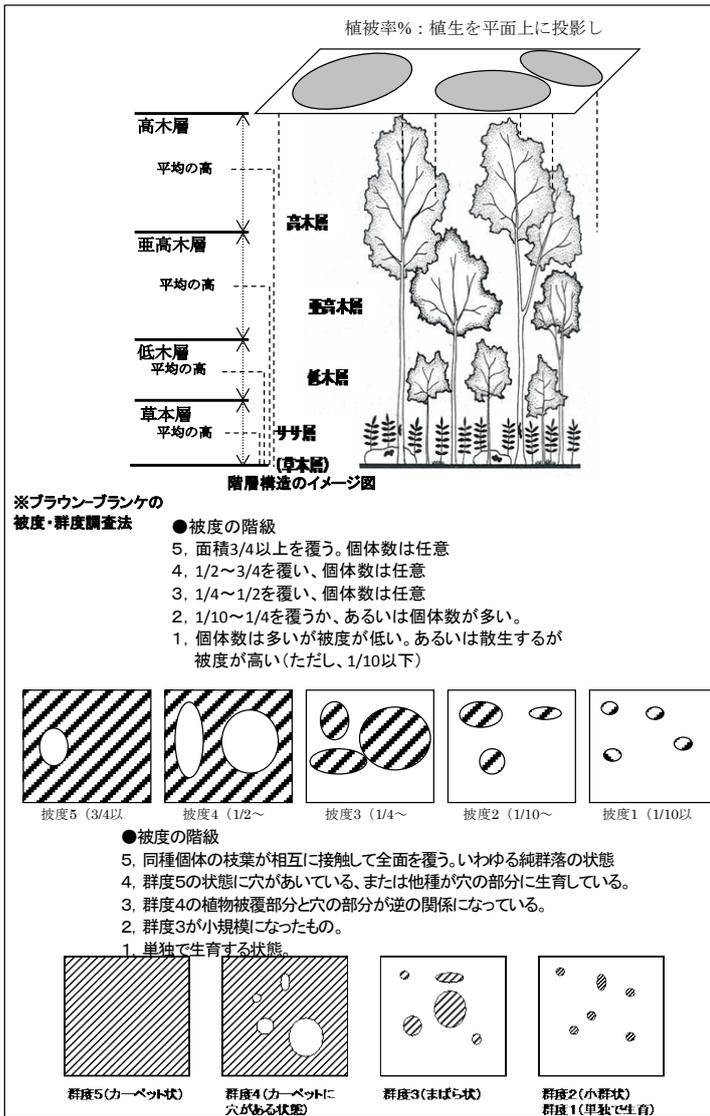
## (2) 注目すべき植物群落

### 1) 事後調査の結果

環境影響評価時及び供用後の事後調査における群落組成調査結果を表 6-50 に示した。環境影響評価において、存在・供用による影響が懸念される注目すべき植物群落として、モミ-イヌブナ群落が挙げられた。環境影響評価時には、モミ-イヌブナ群落の 7 地点について群落組成調査が実施されており、供用後の事後調査では環境影響評価時の 7 地点のうち、改変エリアに最も近接する 1 地点を選定し、群落組成調査を実施した。

表 6-50 環境影響評価時及び供用後の事後調査における群落組成調査結果

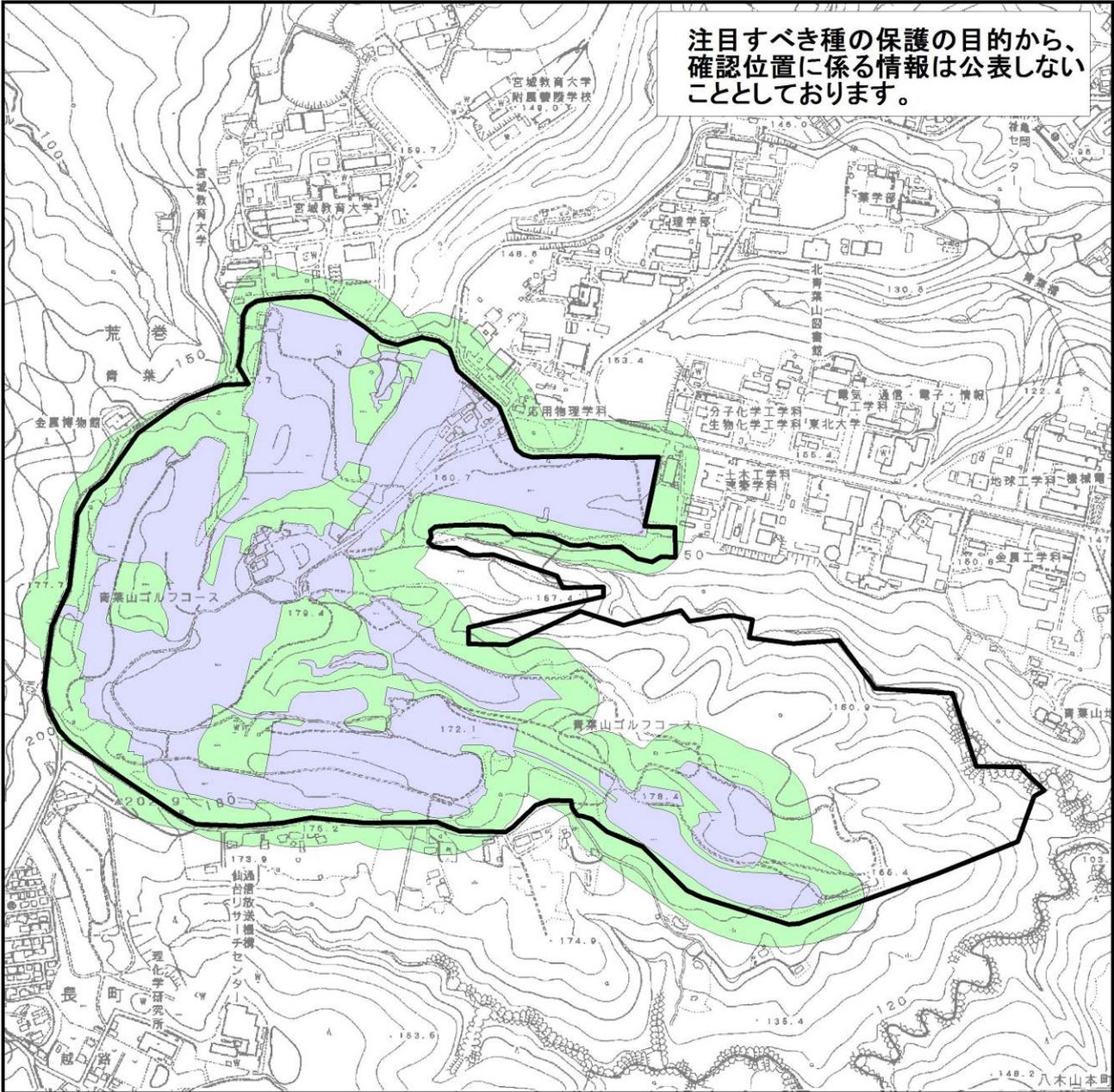
階層	種名	調査年		階層	種名	調査年		階層	種名	調査年	
		環境影響評価 (H17年)	事後調査 (H25年)			環境影響評価 (H17年)	事後調査 (H25年)			環境影響評価 (H17年)	事後調査 (H25年)
高木層	モミ	4・4	4・4	低木層	スズタケ	2・3	1・2	草本層	ヒメカンスゲ	1・2	1・1
	アカマツ	1・1	1・1		モミ	1・2	2・2		イヌツゲ	+2	1・1
	コナラ	+2	1・1		アブラツツジ	+2	+		キッコウハグマ	+2	1・1
亜高木層	モミ	2・3	2・3		イヌフナ	+2	+2		コチデミザサ	+2	+
	イヌフナ	1・2	1・2		アオキ	+	+		スズタケ	+2	
	カスミザクラ	1・1	1・1		アワフキ	+	+2		タカノツメ	+2	
	コハウチワカエデ	1・1	1・1		コシアブラ	+	+		フジ	+2	+
	タカノツメ	+2	1・1		マンサク	+	+		モミ	+2	+2
	アオハダ	+	+		ヤブムラサキ	+	+		コゴメウツギ	+2	
	コシアブラ	+	+		チョウジザクラ	+			ダキバヒメアザミ	+2	
	ハウチワカエデ	+	+	ノキシノブ	+		アオキ	+	1・1		
	マンサク	+	+	ウメモドキ		+	アキノキリンソウ	+	+		
	チョウジザクラ	+		タカノツメ		+	アワフキ	+	+		
ムラサキシキブ	+		ハウチワカエデ		+2	ウゴツクハネウツギ	+	+			
ウラゲエンコウカエデ		+	バイカツツジ		+	ウメモドキ	+				
シラキ		+				ウラゲエンコウカエデ	+	+			
フジ		+2				コハウチワカエデ	+				



イヌツゲ	+2	1・1
キッコウハグマ	+2	1・1
コチデミザサ	+2	+
スズタケ	+2	
タカノツメ	+2	
フジ	+2	+
モミ	+2	+2
コゴメウツギ	+2	
ダキバヒメアザミ	+2	
アオキ	+	1・1
アキノキリンソウ	+	+
アワフキ	+	+
ウゴツクハネウツギ	+	+
ウメモドキ	+	
ウラゲエンコウカエデ	+	+
コハウチワカエデ	+	
シシガシラ	+	1・1
ジャノヒゲ	+	+
シラキ	+	
ゼンマイ	+	+
ツクバネ	+	+
ツリバナ	+	+
ナガハシスミレ	+	+
ナガバノコウヤボウキ	+	+
ハウチワカエデ	+	+
ハリガネウラボ	+	1・1
ヒメシャガ	+	+
フクオウソウ	+	+
ヘクソカズラ	+	+
マキノスミレ	+	+
マツバサ	+	+
ミツバアケビ	+	+
ミヤマガマズミ	+	+
モミジイチゴ	+	+
ヤブムラサキ	+	
アズマスゲ	+	
ウワミズザクラ	+	
オオバクロモジ	+	
オトコヨウゾメ	+	
コウヤザサ	+	
サルトリイバラ	+	
シュラン	+	
シラカシ	+	
シロダモ	+	
ツルリンドウ	+	
トウゴクミツバツツジ	+	
トウネズミモチ	+	
ノブドウ	+	
ミヤマウスラ	+	
コシアブラ		+
コナラ		+
ウリハダカエデ		+
カクレミノ		+
ガマズミ		+
キツタ		+
ケヤキ		+
タガネソウ		+
チゴユリ		+
ツタウルシ		+
バイカツツジ		+
ヤマカシユウ		+
ヤマツツジ		+2
ヤマモミジ		+

注) 調査実施日は、環境影響評価時が平成 17 年 10 月 19 日、供用後の事後調査が平成 25 年 10 月 3 日である。

注目すべき種の保護の目的から、  
確認位置に係る情報は公表しない  
こととしております。



凡例

-  対象事業実施区域
-  変更エリア
-  変更エリア境界から60m範囲

- 植生群落組成調査地点  
(モミーヌブナ群落)
-  供用後の事後調査(H25)
-  環境影響評価時(H17)

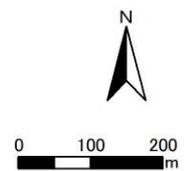


図 6-51 注目すべき植物群落の調査地点

## 2) 予測結果の検証

環境影響評価時及び供用後の事後調査における群落組成調査の確認種数の変化を図 6-52 に示した。

環境影響評価時及び供用後の事後調査の結果では、高木層、亜高木層、低木層及び草本層の確認種数及び種組成に大きな変化はみられなかった。

植物群落全体としては種組成に大きな変化はなかったことから、事業による注目すべき植物群落への影響は予測結果のとおり小さかったと考えられる。また、評価書では、外来種の新たな侵入が懸念されていたが、環境影響評価時に外来種のトウネズミモチ 1 種が確認されたのに対し、供用後の事後調査では外来種は確認されなかった。

注目すべき植物群落への事業による影響はほとんどみられなかったため、追加の環境保全措置は特に講じないが、第 4 章に示した環境保全措置を引き続き実施していく。

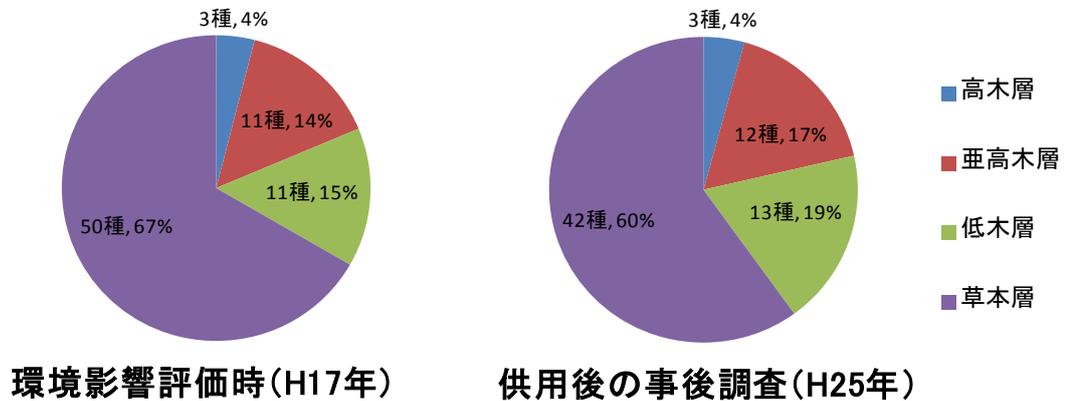


図 6-52 環境影響評価時及び供用後の事後調査における群落組成調査の確認種数の割合